

きのうのみちばた

Daily Life of Yesteryear

ベリー マキコ

Makiko Berry

2023年12月2日[土] — 2024年1月8日[月・祝] 13時から19時まで

Gallery P A R C

GRAND MARBLE

水・木および年末年始(12月27日[水]~1月5日[金])は休廊 入場無料

※新年1月6日[土]・7日[日]・8日[月・祝]の3日間は会場でのワークショップ開催にあわせ、展示構成を一部変更いたします。

【ワークショップ】 ベリー マキコとともに自然物のかたちや色に目と手で触れて楽しむ、さまざまな造形ワークショップを連日開催します。

1月6日[土] 「ゴリゴリエのぐ」 参加費:700円 ひと握りの石や砂をゴリゴリとすりつぶしてつくった絵具で「何か」を描こう。

1月7日[日] 「ねんどコネコネ」 参加費:700円 ねんどをコネコネしながら小石や小枝を合わせて「何か」をつくろう。

1月8日[月・祝] 「はっぱコンコン」 参加費:1000円 トートバッグに葉っぱを並べてコンコン叩いて、自然の色や形をうつしとろう。

すべて各日14時~17時(随時受付・予約優先制)/対象は3歳以上(未就学児は保護者同伴でご参加ください)

▼事前のご予約はメール/電話/web申し込みフォームにて、

お名前・参加希望日・人数・年齢(参加される方が小学生以下の場合)・当日連絡のつくご連絡先をご記入ください。

メール:info@galleryparc.com 電話:075-334-5085(水・木および年末年始 [12/27~1/5] 休廊) web申し込みフォーム:

※詳細・ご予約はギャラリーパークHP(www.galleryparc.com)にて



ベリー マキコ (Makiko Berry・1975年京都府生まれ)は、京都府亀岡市に生まれ、里山を謳歌する暮らしの中で自然への観察眼や好奇心を育んだと言います。1998年の成安造形大学日本画クラス研究生修了後、メトロポリタン美術館東洋美術修復室に勤務のため渡米。おもに絵画の修復を手がける傍、版画作品の制作・発表、絵本の出版などに取り組みます。2008年の帰国後から本格的に作家活動を再開し、2012年には『第4回京都日本画新展』にて大賞を、2016年の『第2回藝文京展~現代の平面~』では優秀賞を受賞。現在でも多くの展覧会に参加する一方、幼児~高校生の感性を磨く「のびなびあーと」の開講や、こども放課後活用プロジェクト「なないろのアトリエ」絵画指導、京都市主催「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」など、アートを通じた教育にも力を注いでいます。

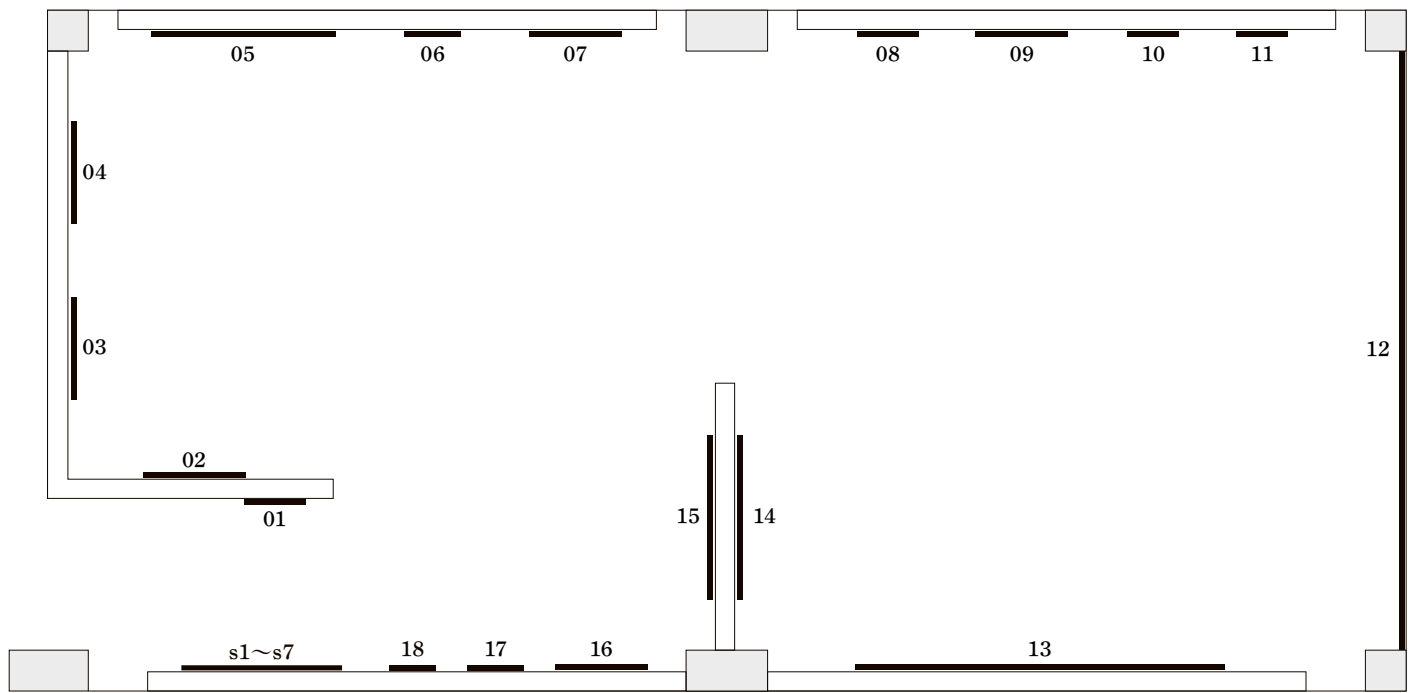
描くにあたって具体的な計画や構想、モチーフを持たずに画面に向かうベリーは、パネルの前で過去の記憶、日常の営みの中で目にした印象、身近な季節や出来事などから「想う・思い出す・考える・感じる」ことから始めます。そうして何ら確かなものはなく、ただなんとなく筆を動かしているうちに、次第に自身の内から生じてくる「何か」を感じ、それを探すかのように線を重ねていきます。やがて、線の集まりが道に見えたらその周囲には花々が、大きな色面が原っぱに見えたらそこには人の集う風景が。こうして線や色に誘われて、思い出したり、想像したりするうちに、それらはやがて連なりや関係を持ち始めます。

突然、ベリーはパネルを90度まわしたり、一気にひっくり返したりし始めます。するとさっきまでの天と地は逆転し、大きな木はその影のように、広い空は草原や海のように、さっきまで親しんだ風景は、ベリーにとってはじめて見る風景となって目の前に広がります。そしてまた、そこに見つけた線や色、カタチに誘われて異なる記憶

と想像が開き、どんどんと継ぎ足されたり上書きされたりするうちに、いつしか線と面、地と図、天と地が混ざり合った自由な風景が画面に広がります。また、ベリーは時に自分の身長ほどの木の枝の先に絵筆をくくりつけ、コントロールのままならぬままに線を描きますが、これも自らの意図を超えた線や面に出会い、それらを出発点に想像を広げるための特異な方法のひとつと言えます。

また、下(先)に描いた線に上(後)から色面を重ねても、それらを塗りつぶすことなく描くことができる日本画材の特徴は、ベリーの制作プロセスとあいまって、様々な線をいわばレイヤーとして残すことを容易にしているといえます。画面をよく見ると、色面の奥に鉛筆や墨による線を見つけ、上書きされる前に描かれていたものの名残が透けて見えます。ベリーの特徴的な絵は、折り重なった様々な眼差しの層がひとつとなり、複雑な画面を織り成しているといえます。

ベリーの絵には、瞬間的・身体的な感性による線や色の広がり、作家の経験や記憶、人生といった時間の厚みをともなうイメージが関係したり、重なられることで、広がりや奥行きを併せ持った独特の空間が現れているといえます。そして、その空間には多く「道」が描かれます。道路、畦道、山道、散歩道。そこには人が行き交い、家族が暮らし、生き物や植物が溢れ、自然がうつろう「みちばた」が現れます。見慣れた日常風景の延長のようであり、遠く旅路で出会う景色にも思えるそのみちばたの絵は、「自分自身(日常)を出発点に線(絵)を描き、そこに現れた線(絵)に再び自分自身(日常)を発見する」という、ベリーの眼差しをなによりもあらわしているといえます。私たちもまたベリーの絵の中に発見した線や絵を手掛かりに、前後左右、手前から奥へとその線を追いかけて、関係を探したりするうちに、さっきまで見慣れた絵に異なる印象を発見するのではないのでしょうか。



01 キミドリイロの大地

The yellow green earth

2023

クレヨン、岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
530×455

02 大空の下で

Under the big sky

2016

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
1167×727

03 収穫

Harvest

2021

岩絵具、水干絵具、膠、墨、金泥、高知麻紙
900×900

04 やわらかな時

A gentle time

2020

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
900×900

05 境界

Border

2023

岩絵具、水干絵具、膠、墨、金箔、金泥、高知麻紙
910×1825

06 ブドウ色に染まる

Dyed in grape color

2023

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
905×450

07 花ガアル場所

Where there are flowers

2023

岩絵具、水干絵具、膠、墨、色鉛筆、クレヨン、高知麻紙
1620×920

08 帰る途中

On the way home

2013

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
870×580

09 初冬

Early Winter

2021

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
900×900

10 青いトコロ

The blue

2016

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
455×380

11 夜景

Night scenery

2017

岩絵具、水干絵具、膠、墨、色鉛筆、高知麻紙
455×380

12 響

Echo

2021

岩絵具、水干絵具、膠、墨、準雲肌麻紙
1825×5680

13 花ハ咲ケドモ

Although the flowers are blooming

2017

岩絵具、水干絵具、膠、墨、金箔、高知麻紙
910×2920

14 めくるめく日々

Dazzling days

2015

岩絵具、水干絵具、膠、墨、金箔、高知麻紙
1620×1820

15 ハジマル

Begins

2019

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
1620×1620

16 Reincarnation

Reincarnation

2022

岩絵具、水干絵具、高知麻紙、色鉛筆
1825×940

17 深深

Quietly

2014

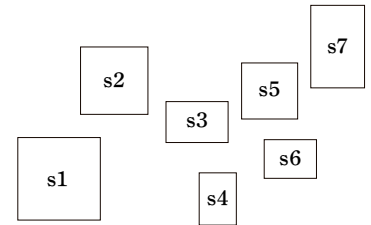
岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
410×510

18 やさしい関係

Gentle relationship

2022

岩絵具、水干絵具、膠、新麻紙
333×333



s1 シトラス

Citrus

2021

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
333×333

s2 ミノル

Bear fruit

2021

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
274×274

s3 集い

Gathering

2022

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
165×250

s4 みやこわすれの時

Time for Miyakowasure

2023

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
227×157

s5 あそび

Asobi

2019

岩絵具、水干絵具、膠、高知麻紙
228×228

s6 ぶらりの下

Under the hanging

2022

岩絵具、水干絵具、膠、高知麻紙
160×210

s7 祝い

Celebration

2021

岩絵具、水干絵具、膠、墨、高知麻紙
333×220